

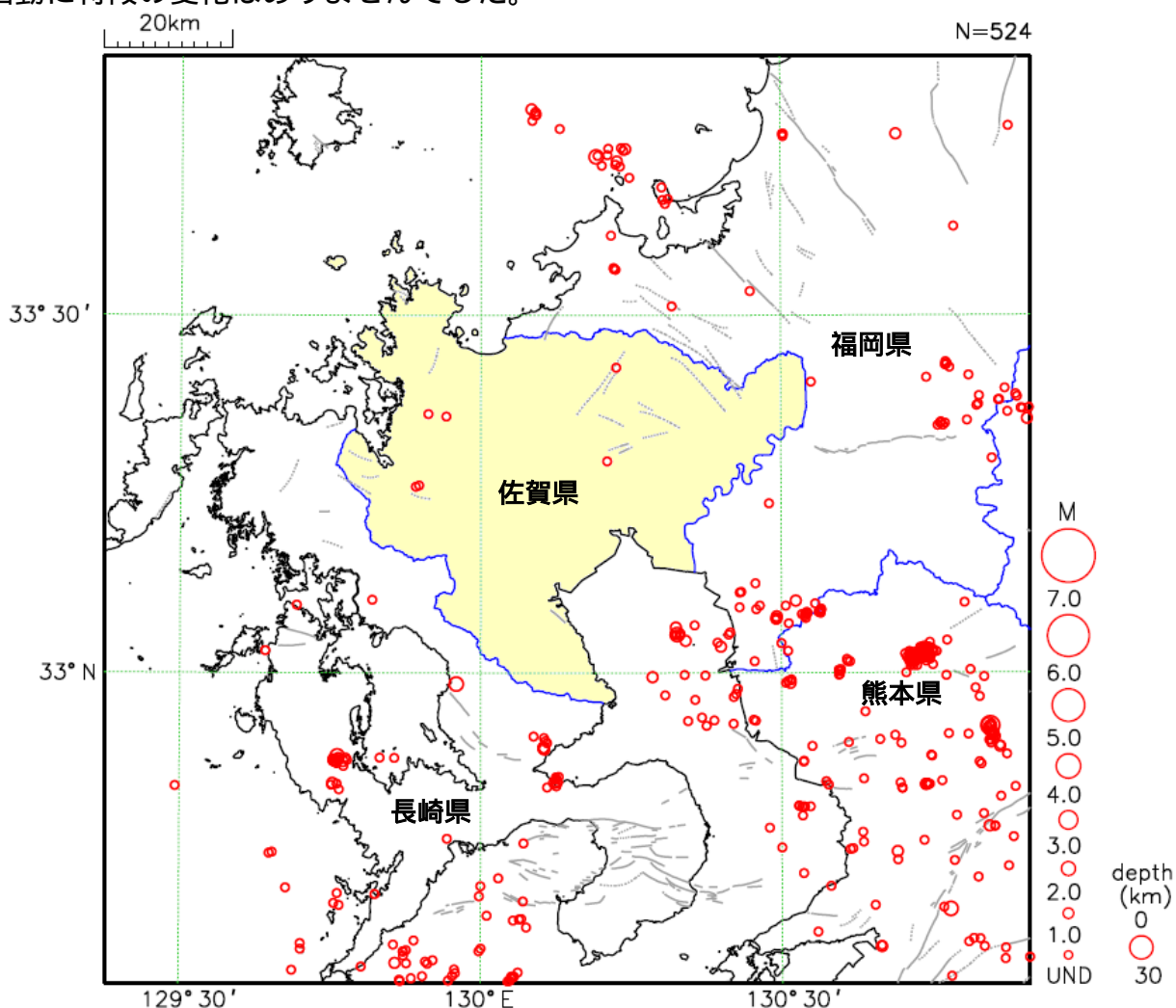
# 佐賀県の地震活動概況 ( 2012 年 1 月 )

平成 24 年 2 月 3 日

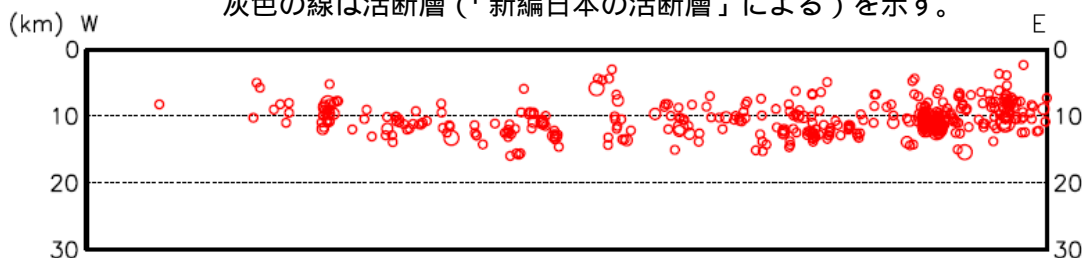
佐賀地方気象台

## 【 1 月の地震活動概況 】

1 月に佐賀県内の震度観測点で震度 1 以上を観測して地震情報を発表した地震は 1 回 ( 下の震央分布図の領域外 ) でした ( 2011 年 12 月は 2 回 ) 。また、県内を震源とする地震活動に特段の変化はありませんでした。



震央分布図 ( 2012 年 1 月 1 日 ~ 31 日、深さ 30km 以浅 )  
灰色の線は活断層 ( 「 新編日本の活断層 」 による ) を示す。



断面図 ( 2012 年 1 月 1 日 ~ 31 日、深さ 30km 以浅 )  
震央分布図を南の方から見た断面図です。

本資料は、独立行政法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、気象庁、独立行政法人産業技術総合研究所、国土地理院、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所、横浜市及び独立行政法人海洋研究開発機構のデータを基に作成しています。また、東北大学の臨時観測点 ( 夏油、岩入、鷺沢、石淵ダム ) のデータを利用しています。

### 日向灘 (30日): 神崎市で震度2、佐賀市などで震度1を観測

30日03時18分に発生したM4.9の地震(深さ39km)により、宮崎県延岡市、大分県佐伯市で震度4を観測したほか、九州地方および中国・四国地方で震度3~1を観測しました。佐賀県内では、神崎市で震度2、佐賀市、鳥栖市、小城市などで震度1を観測しました(図1)。

この付近を震源とする地震により、佐賀県内で震度1以上を観測したのは、2006年3月27日に発生した地震(M5.5、深さ35km)以来で、この地震では神崎市と上峰町で震度3、佐賀市などで震度2を観測しました(図2~図4)。なお、2009年8月5日に発生した地震(M5.0、深さ33km)では、佐賀県内で震度1以上を観測していません。

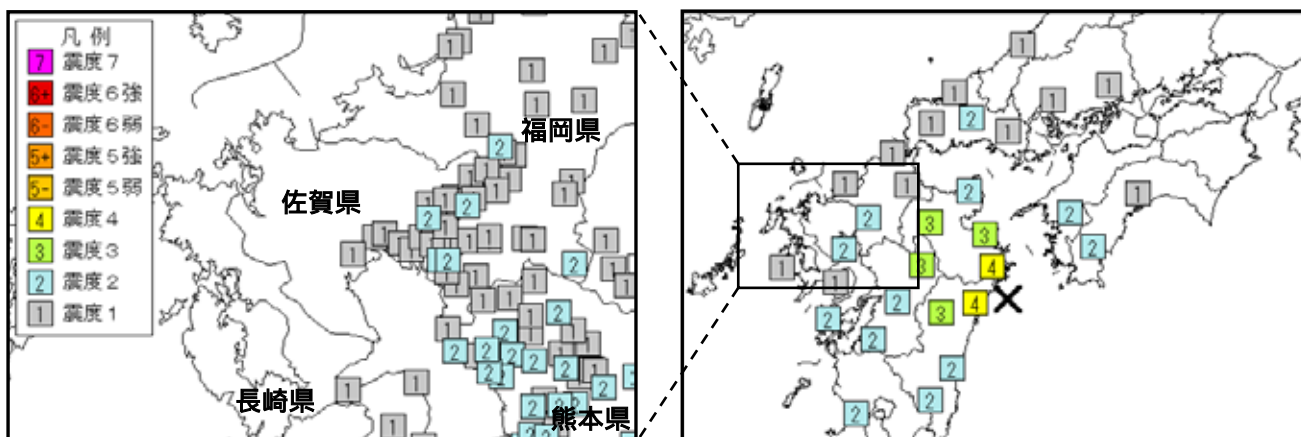


図1 震度分布図(左:観測点震度、右:地域震度、×は震央)

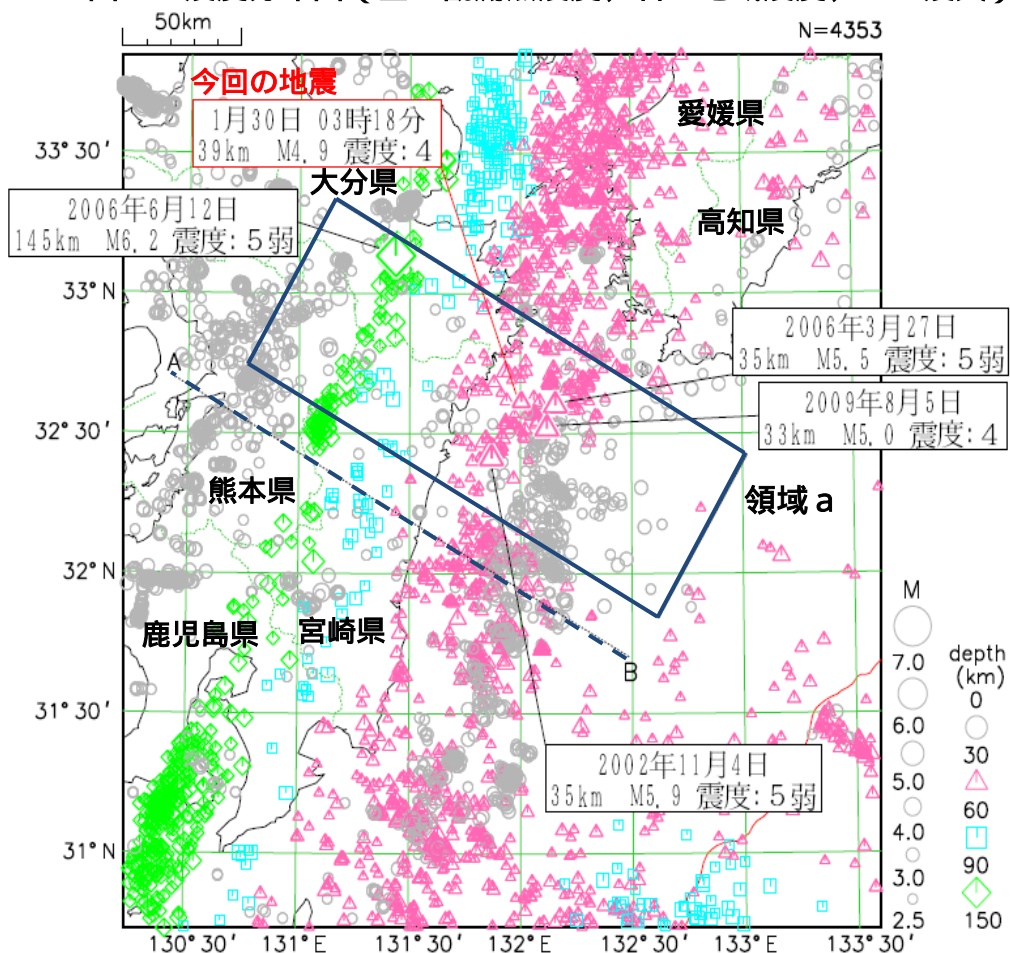


図2 震央分布図

(1997年10月1日~2012年1月31日、深さ0~150km、M 2.5)  
領域a内でM5.0以上と今回の地震にコメントを付けた。  
図中右下の赤色の曲線は海溝軸を示す。

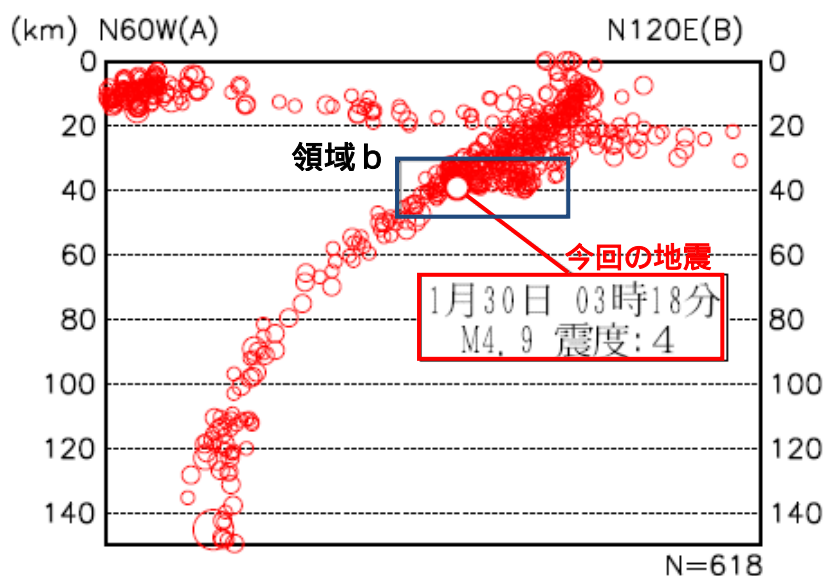


図3 領域 a 内の断面図 (A-B 投影)  
(1997年10月1日~2012年1月31日、深さ0~150km、M 2.5)

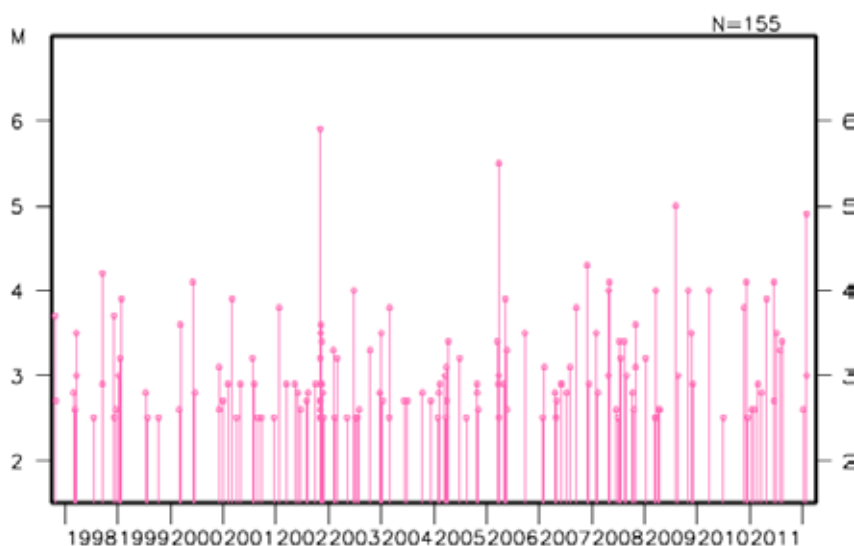


図4 領域 b 内の地震活動経過図  
(1997年10月1日~2012年1月31日、M 2.5)

表1 佐賀県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震 (2012年1月1日~1月31日)

地震発生時刻	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
1月30日03時18分	日向灘	32°36.8'	132°00.2'	39km	M4.9
佐賀県	震度2 神崎市千代田*				
	震度1 佐賀市諸富* 佐賀市川副* 佐賀市東与賀* 佐賀市久保田*				
	鳥栖市宿町* 上峰町坊所* 白石町福田* みやき町北茂安*				
	みやき町三根* 小城市芦刈* 神崎市神埼*				

(注) 使用した震源要素等は暫定値であり、後日修正することがあります。

\*は、地方公共団体または、独立行政法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

## 長周期地震動について

- 長周期地震動の特徴と気象庁の取り組み -

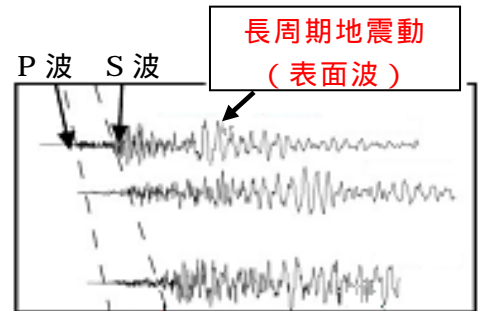
平成 23 年 ( 2011 年 ) 東北地方太平洋沖地震では、首都圏や震源から離れた近畿地方の高層ビルや、石油タンク等で長周期地震動による大きな揺れが発生しました。近い将来、発生が懸念されている南海トラフにおける巨大地震でも、長周期地震動による大きな揺れが発生することが懸念されています。

今月は、長周期地震動の特徴と気象庁の取り組みについて紹介します。

### 長周期地震動とは

地震時の地面の揺れ ( 地震動 ) は、周期の短い揺れから、ゆっくりとした周期の長い揺れを含んでいます。

地震の揺れの中で、周期が数秒から 20 秒程度の揺れを「長周期地震動」といいます。

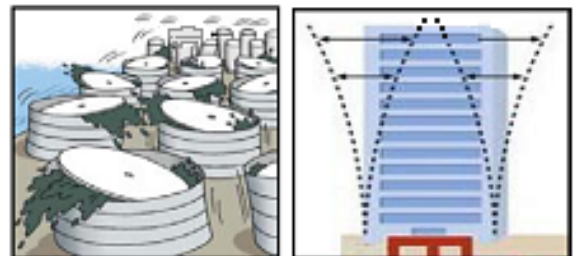


### 長周期地震動の特徴

- ・地震の規模が大きいくほど、震源の深さが浅いほど長周期地震動による被害が発生しやすくなります
- ・揺れの周期が長いと震度に比べて、大きな被害が発生することがあります
- ・盆地や平野部では揺れの継続時間が長くなることがあります
- ・震源から遠く離れた所でも被害が生じることがあります

### 長周期地震動による被害例

- ・平成15年(2003年)十勝沖地震 (M8.0)  
震源から200km以上離れた苫小牧市 (震度 5 弱) において石油タンク火災が発生
- ・平成16年(2004年)新潟県中越地震 (M6.8)  
震源から約200km離れた東京都港区 (震度 3 ) において高層ビルのエレベータ 6 基が損傷
- ・平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震 (M9.0)  
震源から700km以上離れた大阪市 (震度 3 ) において高層ビル52階で 2 mを超える横揺れが発生



高層ビルや石油タンク等の被害

### 今後の取り組み

気象庁では地震発生後直ちに発表している震度情報に加え、一般の方や防災関係機関に揺れの大きさや特徴、被害の程度等を分かりやすい情報として、「震度」とは別に防災に資する新たな長周期地震動情報を提供しよう検討を開始しました。

平成23年度	平成24年度	平成25年度以降
観測に関する検討会の開催 第1回 11月14日 第2回 12月21日	観測・予報に関する検討会の開催 長周期地震動分析装置の整備 長周期地震動の分析	長周期地震動予報発表開始

長周期地震動に関する観測情報の発表開始

長周期地震動に関する情報のあり方検討会